



【チェック実施病院】大阪医療センター
関本貢嗣 医療安全管理部長

電子カルテシステムの画面で、ハイリスク薬(特に管理が必要な医薬品)が他の薬と異なる色で表示されていました。これは非常に有効な対策です。アレルギー体質の方などに使用される造影剤(X線撮影で臓器などを見やすくする薬品)については、検査担当医だけでなく、主治医も積極的に管理している点も優れていたと思います。改善のために日々、意見交換を活発に行い、工夫をされていることを窺い知ることができました。



【チェック対象病院】京都医療センター
白神幸太郎 診療部長(医療安全担当)

他者の目が入ると、私たちが気づかなかった点が多々あることが明らかになってきます。一方、安全対策のためのアプローチはいろいろあってしかるべきで、私たちが独自に行っている安全対策は、チェック実施病院とオブザーバー病院の皆さんの参考になったと思います。より高いレベルの意見交換ができました。相互チェックの継続は大変ですが、互いに良い刺激となり、続ける価値があります。4時間に及ぶ相互チェックはとて有意義なものとなりました。



【オブザーバー病院】南和歌山医療センター
服部雄司 副薬剤部長兼医薬品情報管理室長

私も京都医療センターの方々の医療安全に対する意識の高さを感じました。転倒・転落防止のための取り組みは重要で、当院も力を入れています。防止策をはじめ、万一、患者さんが転んだ場合も、当直医や主治医などドクターの方がしっかりと連携されている点が優れていると思いました。当院での相互チェック実施への貴重な体験となりました(取材時は実施前)。

「QC活動全国最優秀賞」 受賞の楯と賞状



京都医療センターでは、院内感染対策チーム(ICT: Infection Control Team)が、「抗菌薬適正使用の試み」というタイトルで2013年度にNHOのQC活動全国最優秀賞を受賞している。NHOのQC活動とは、具体的な業務課題の解決に取り組み、品質の適正保持・効率化・改善などの対策を考え、実践する活動。「できることから始めよう!」をスローガンに「QC活動奨励表彰」制度を創設し、医療安全をはじめ、医療サービス、経営改善に関わるテーマについて、職員から創意工夫を凝らした取り組みを募集、表彰している

スペシャリストの素顔

現場で活躍するさまざまな職種をご紹介します。



医療安全管理係長

院内の各部署と連携しながら、病院全体の医療安全管理体制を整えていく医療安全のリスクマネージャー。組織横断的な業務を行う実働隊として、患者さんと接する時間が長い看護師長が専任で務める場合が多い。

大阪医療センター(大阪市)
医療安全管理係長(看護師長) 角野 郁子さん

「点眼薬の注意点」に関わる病棟の勉強会に同席した角野係長。事故を防止するのはあくまで現場というスタンスで、「これまでどうしてた?」といった質問で理解度を確認する

医療安全を実現するためのポイントは?

医療安全において何よりも有効なのは、思わぬ事態が発生する可能性をいち早くキャッチし、事前に防止策を講じることです。私たちはその可能性をキャッチすると、必要に応じて関係する部署・職種を集めた組織横断的なグループを立ち上げ、防止策を検討します。また、各診療科の科長(医師)や看護師長などが参加するリスクマネージャー会が定期的に行われており、ここでも検討を重ねて新たな対策を実現していきます。

医療の現場は、細かなことまでマニュアル化し安全第一に努めていますが、手順の間違いなど、直接、患者さんに影響を及ぼす手前で発見している問題もあります。些細な問題でも、直ちに現場でそのシーンを再現してもらいます。現場では当たり前の手順でも、私たちは第三者的な目で判断できるので、間違いの原因に気づくことがあります。また、従来の手順のどこに問題があったのかをみんなで再確認できる機会になります。そして、新たな防止策につなげる際のポイントは“見える化”です。間違いが起こった場面とその前後の写真を新たなマニュアルに添付し、言葉だけではなく視覚でも訴えて再発を防止するのです。



医療安全の確保に欠かせないものとは?

何よりも院内の風通しの良さです。少しでも気になることがあれば、各病棟の看護師長が私たちに知らせてくれます。また、医師のリーダーシップも心強く、柔軟に対応する上で大きな力となっています。院内の円滑なコミュニケーションがスピーディーな行動につながり、患者さんの安全確保につながっているのです。

すべての医療スタッフは「患者さんに良くなってほしい」と願っており、目指すゴールは患者さんと同じです。医療安全を確保することは日頃の医療や看護の実践の中で立ち止まって考えることであり、コミュニケーションの大切さを発信していくことも、大きな役割だと考えています。



京都医療センターで行われた医療安全相互チェック(P01~05参照)に参加した角野係長。他の現場を見られる機会は貴重で、その現場での改善例を知ることは大いに参考となる

同僚の近藤副部長と対応マニュアルを確認する角野係長